

## 60.城下町都市唐津における近代以降のヴィスタ景変容の類型化

林 慎太郎

## 1. 目的

現在日本の多くの都市が近世城下町を基盤として発展を遂げており、今日においてもその名残を見受けることができる。近世城下町は軍事機能を持つだけでなく、藩の中心としての政治・経済機能といった都市機能を持ちそれを美しく配してできた多機能都市であった。ヴィスタ景とは中島直人により、「一点透視型の構図を内包した眺望景観のうち、焦点方向に視線を誘う並木や建造物が存在するもの」<sup>1)</sup>と定義されており、近世城下町の城郭や名山等を目標にした都市設計に見出されてきた。特に山へのヴィスタ景を設定することを山アテといい、「周囲の山は場所の位置関係を知る上で重要なランドマークであるだけではない、古くから伝わる山を借景とする造園手法を市街地の町割手法に生かしたのではないか」<sup>2)</sup>と若月幸敏はいう。山アテと借景では、山アテによる景色は当時の為政者により生み出されたものではあるが、そこに住む人々の手共有財産である点で異なる。しかし、近代以降に様々な要因によりそのヴィスタ景を失ってしまっている。

城下町に関し、佐藤滋、新谷洋二<sup>3)</sup>らにより城下町の設計原理および鉄道の導入、官公庁の設置、戦前の街路網の計画などが明らかになった。一方でヴィスタ景観に関して篠原修ら<sup>4)</sup>により、ヴィスタ設計の変容が論じられている。しかし、近代以降の同じヴィスタ景について、経年変化及びその要因を調査し考察した論文はない。

本研究の対象地唐津は、戦災を受けること無く近世城下町当時の町割が色濃く残る都市である。しかし、城郭内には官公庁や商業施設が立ち並び、近年では高層マンションが建設され、必ずしも当時の趣を残しているとは言えない。都市が変貌していく過程で失われてしまったヴィスタ景観について阻害要因を見出し類型化することを本研究の目的とする。

研究は唐津の城下町設計において設定されたヴィスタ景を抽出し、近代以降の変容過程を文献調査、ヒアリング及び現地踏査により調査を進めた。

## 内容

## 2-1 ヴィスタ景の抽出

近世に城下町が成立する以前、松浦川の河道は現在より広く、河口部に州が浮かんでいたと考えられており、現在の唐津の様相と大きく異なっていた。寺沢志摩守広高が、これら州および河道を利用して、慶長7年(1602)から同13年(1608)にかけて現在の唐津の原型となる唐津城下町を築いた。北と東とを海が遮り、西と南とを堀で区画した城内に武家屋敷を設け、大手門前に東西または、南北に規則正しく道路に沿って内町、さらに川を隔てて外町があり、またさらにその周辺に水主、足軽の組屋敷を起し、東西に陣屋敷御堂をもった寺院を配置し、非常の際の防御の目的に周辺に防壁のように配する縄張は、近世城下町の典型といえる。

細部を見ると、城下町の形成過程で、基軸となる街路および水路を東西南北4方向の周辺の山および島に向け、ヴィスタ景を作り出している。また、街並はこれに従う形で街路が敷かれ形成された。東西南北方向の基軸を図-1に示す。

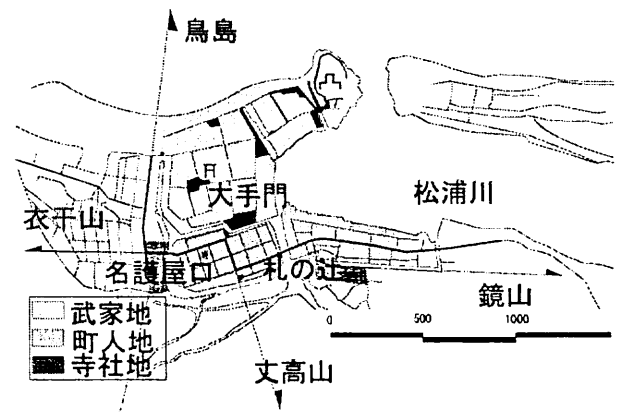


図-1: 近世城下町唐津のヴィスタ景の基軸

北方向：三の丸と町人地の間の堀を鳥島へ  
 南方向：大手口を出た通りを丈高山へ  
 東方向：東寺町と町人地の間にある堀を鏡山へ  
 西方向：名護屋口を出た通りが衣千山へ  
 これらを元にして、城下町の方角を決定づける際、  
 基軸となる街路を決定しており、都市に周囲の景  
 観を取り入れるつくりとなっている。  
 また、対象街路は、山アテをされている基軸及び  
 それにより派生した街路とし、15本を選定した。  
 選定した街路を図-2に示す。

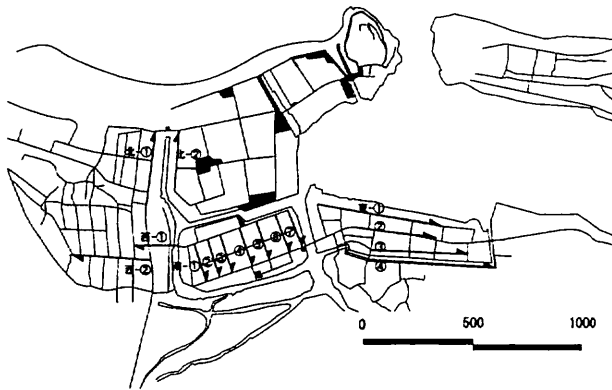


図-2：基軸により派生した調査街路

2-2 近代以降のヴィスタ景の変容

2-1により抽出した15本の街路の変遷を調べると表-1のようになる。ヴィスタ景の阻害要因として、物理的には大きく①障害物ができることによる阻害、②街路の変形による阻害、③側面の構造物の変形による阻害に分類できる。

要素を細かく見ていくと、電柱・電線がほとんどの街路について共通して存在する。また、阻害となった高層ビルが建てられるに至った経緯として、都市計画道路として道路幅員が広がったために高層化が可能となった地域、用途地域の変更により、高層化が可能となった地域がある。

3. 結論

近世城下町唐津が有していたヴィスタ景を抽出しその近代以降の変遷と損失要因について整理した。

参考文献

- 1) 中島直人「国会議事堂へのヴィスタ景観—そのヴィスタ景の価値」『季刊まちづくり』2003年12月 p52
- 2) 若月幸敏、1980、「見え隠れする都市」、鹿島出版会 p91-138
- 3) 佐藤滋、2002、「図説城下町都市」、鹿島出版会、1996、「近世城下町を基盤とする地方都市の近代都市づくりに関する研究 その7 官公庁施設による都心部形成の類型化」、日本建築学会大会学術講演梗概集、p733、734
- 4) 新谷洋二、1987、「旧城下町における鉄道の導入とその後の町の変容に関する研究」、日本土木史研究発表論文集 7 巻 p 113-120
- 5) 篠原修、1992、「日本におけるヴィスタ設計の受容と変容に関する研究」、土木計画学研究・講演集 p 913-920

表-1：ヴィスタ景変容の要因

街路	軸方向	ヴィスタ景の変化							
		1600	1800	1900	1920	1940	1960	1980	2000
北-1	鳥島	民家			民家消失			道路拡幅	公園
北-2		民家						道路拡幅	民家高層化
南-1	丈高山	民家							
南-2		民家							
南-3		民家							
南-4		町田口門		唐津線開通			道路延長	道路拡幅・電線地中化	
南-5		民家		電線・電柱			アーケード化	唐津線高架化	マンション
南-6		民家					アーケード化		公共施設
南-7		札の辻門							公園
東-1	鏡山					工場			
東-2		民家							
東-3		民家						マンション	
東-4		民家				学校			
西-1	衣千山	民家					民家高層化		
西-2		民家						公園	

## 60. Typing the view through vista after modern ages at the Bourg Karatsu

Shintaro Hayashi

The base of a lot of cities in Japan is a Bourg at the early modern age. And, we can see the remaining influences. The Bourg was a multifunctional city where had various urban functions not of only a military but of also like politics, economics and so on. Also there was excellent scenery. The method of "Yamaate" was used. This induces your glance to the mountain. This method has a common with the method of "Shakkei". He takes the view of the mountain into scenery in the garden. But scenery based on "Yamaate" is community property. It is the difference of both. However we have been losing this scenery nowadays because of so various reasons. So, I study these reason and type them.

I investigated when and why the changes of some roads took place by hearing, Document investigation.